

令和7年度 北の国・森林づくり技術交流発表会プログラム

会場：北海道大学学術交流会館（札幌市北区北8条西5丁目）

発表会の模様は、YouTubeでLIVE配信します。

令和8年2月17日(火)

YouTubeLive: <https://youtube.com/live/nE76BxgVk4o?feature=share>



◎ 受		付	9:00～
◎ 開	会	式	9:30～ 9:45
◎ □	頭 発	表	
	森 林 技 術 部 門		9:50～11:05
	森 林 保 全 ・ ふ れ あ い 部 門		11:20～12:20
◎ ポ	ス タ ー 発 表 コ ア タイム		
	一 般 部 門		13:20～14:20
◎ 特	別 発 表		14:30～15:45

令和8年2月18日(水)

YouTubeLive: <https://youtube.com/live/CYtfSJoixxk?feature=share>



◎ 受		付	9:00～
◎ □	頭 発	表	
	森 林 保 全 ・ ふ れ あ い 部 門		9:30～11:10
	高 等 学 校 部 門		11:20～12:05
◎ ポ	ス タ ー 発 表 コ ア タイム		
	高 等 学 校 部 門		13:00～13:40
◎ 特	別 講 演		13:45～14:45
◎ 講	評 ・ 表 彰 式		14:50～15:10
◎ 閉		会	15:10

※ YouTubeで配信します発表会の映像及び北海道森林管理局が撮影します発表者や来場者等発表会に関する写真は、北海道森林管理局ホームページや技術交流発表集に使用いたしますので、予め御承知おきください。

林野庁 北海道森林管理局

令和7年度 北の国・森林づくり技術交流発表会(1日目)

令和8年2月17日(火)

森 林 技 術 部 門	5課題	9:50～11:05
森 林 保 全 ・ ふ れ あ い 部 門	4課題	11:20～12:20
特 別 発 表	4課題	14:30～15:45

場所:講堂(2階)

【森林技術部門】

9:50～ ① ラジコン式林業機械による地拵作業の考察

網走西部森林管理署西紋別支署 村田 幸哉、佐藤 瑞葉、柳谷 侑汰

〔作業工程の調査結果について述べるとともに、人力による地拵えとの比較により時間の縮減・労働強度の低減・労働安全性などの視点から分析を行い、「新しい林業」への取り組みとして今後の展望を考察する。〕

10:05～ ② UAVを活用した森林調査の検証について

石狩森林管理署 温井 和樹、岡部 計輝

石狩市森林組合 浅海 潤一

〔同一林分において毎木、標準地、OWL、UAVレーザ計測による森林調査をそれぞれ行い、その成果及び調査手法ごとの工程を比較し、調査精度及び現場作業や事務作業の軽労化の検証を行った。〕

10:20～ ③ 「道産ヒバ」の育林技術の普及を目指して
～地域適応化モデル林の調査結果とその考察～

北海道渡島総合振興局東部森林室普及課 國井 清嗣郎、大竹 由郎

〔道内で初めて郷土に自生する種子から生産された「道産ヒバ」の育林技術の普及を目的に、平成15年から令和6年までの21年間にわたって実施した地域適応化モデル林の調査結果とその考察について報告する。〕

10:35～ ④ アクションカメラを用いた立木状態での三次元モデル生成の試み

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 岸本 光樹

〔優良木について立木状態での三次元モデルを生成することで、形質情報の判断、共有の補足材料となると考えられる。アクションカメラを用いることで簡易に三次元モデルを生成する技術について報告する。〕

10:50～ ⑤ 従業員確保の難しい現状でのコンテナ苗の増産

紋別地区種苗協議会 遠藤 貞

〔造林植付増で苗木の需要が増え供給が追いつかない現状である。苗畑従業員の高齢化などで確保が難しい中でのコンテナ苗増産を考えてみました。①幼苗移植期間の延長②移植期間延長に合わせた幼苗育苗③移植期間に合わせた育苗管理〕

休憩 11:05～11:20

【森林保全・ふれあい部門】

11:20～ ① ナラ枯れ被害木調査の効果的な方法の検討

檜山森林管理署 佐藤 諒一、加藤 巧、橋本 翔吾

〔 現在、道南地域ではナラ枯れ被害が発生している。
檜山署においても令和6年度からナラ枯れ被害を確認しており、令和7年度以降もナラ枯れ被害が予見されたため、ナラ枯れ被害木調査における効果的な方法を検討した。 〕

11:35～ ② 網走西部森林管理署管内に所在する瀬戸瀬山風穴の希少種の生息実態と生態の解明

網走西部森林管理署 穂刈 裕一、長谷川 斗真

〔 網走西部森林管理署管内にある、夏でも冷涼な風穴箇所において、自動撮影カメラを用いて準絶滅危惧種であるエソナキウサギの活動傾向を調査した。秋季の日中の活動が多かったが、夜間や冬季も活動が記録された。 〕

11:50～ ③ 根室管内におけるエゾシカによる造林被害低減対策

根釧東部森林管理署 西川 希一、佐々木 宥紀、本澤 那菜

〔 根室管内のエゾシカによる農林業被害は依然高推移であり、植栽木の食害を起因とした成長阻害や枯死、苗の引き抜き等が発生し対策が必要であり、低コストで効率的な被害低減対策を検証した。 〕

12:05～ ④ 超音波を用いた植物へのポリエチレングリコールの浸透促進と3D標本の作製への応用

㈱ミスティックフラワー 田中 梨瑚 明治大学商学部 土居 拓務

桐蔭横浜大学医用工学部 石河 睦生

〔 植物標本化において色彩と形状を同時に自然の状態で残すことは困難なものであった。今回、強力超音波技術を利用しPEG等の薬液を植物内へ浸透させ植物標本の作製を試みた。希少種への応用についても合わせて報告する。 〕

昼食休憩 12:20～13:20

ポスター発表(一般部門)コアタイム 13:20～14:20

【特別発表】

14:30～ ① 低コスト再生林を目指したカラマツ天然更新の検証
～地がきから10年目の成果～

北海道森林管理局森林技術・支援センター 西間 孝志

主伐後の再生林を低コストで効率的に行う取組みとして、常伐採跡地に天然更新を促す地表処理、更新の確実性や効果の検証に取り組んでいることから、カラマツ人工林における試験経過について報告する。

14:45～ ② 長期にわたる流域試験から分かること:定山溪森林理水試験地の成果から

国立研究開発法人森林研究・整備機構

森林総合研究所北海道支所 飯田 真一

定山溪森林理水試験地では1987年から降水量ならびに河川流出量の計測を継続している。38年間に及ぶ観測に基づき、気候変動等による環境変化が森林水循環に及ぼす影響について検討した結果を紹介する。

15:05～ ③ クリーンラッチ採種園での本格的な種子生産に向けて

国立研究開発法人森林研究・整備機構

森林総合研究所林木育種センター北海道育種場 生方 正俊

グイマツ雑種F1の一種であるクリーンラッチ種苗の安定的な供給のため、北海道内の22か所に採種園が造成されています。本発表ではこれらの採種園を対象に4年間の球果着果量や種子発芽率の変動等について紹介する。

15:25～ ④ 固形バイオ燃料規格の国際化に対応するための北海道産チップ・ペレット燃料
の品質調査

北海道立総合研究機構 森林研究本部 林産試験場 山田 敦

品質向上と公正なエネルギー取引の定着を目指して固形バイオ燃料規格の国際化が進められている。そこで道内のチップ・ペレット燃料について品質評価を行うとともに、適正な品質管理方法を検討したので報告する。

令和7年度 北の国・森林づくり技術交流発表会（2日目）

令和8年2月18日（水）
場所：講堂（2階）

森 林 保 全 ・ ふ れ あ い 部 門	6課題	9:30～11:10
高 等 学 校 部 門	3課題	11:20～12:05
特 別 講 演		13:45～14:45

【森林保全・ふれあい部門】

9:30～ ⑤ カミネツコンを使用した植樹における野生鳥獣被害の現状及び防除の有効性

留萌南部森林管理署 平野 愛梨、加藤 琉誠

〔 森林教室等において、カミネツコンによる植樹を行った際、野生鳥獣に荒らされる被害が見受けられているため、被害を及ぼす野生鳥獣の特定と複数の防除方法について検証し、有効性について比較した結果を報告する。 〕

9:45～ ⑥ 学校の森から地域の森へ～わんぱくの森がつなぐ人とまち～

空知森林管理署北空知支署 山方 隆寛、澤田 圭祐

〔 朱鞠内小学校との遊々の森協定により“わんぱくの森”で森林教室を実施してきた。今年度朱鞠内小が休校となり協定は教育委員会へと引き継がれ、学校単位の取り組みから地域住民と森をつなぐ新たな連携の形を模索。 〕

10:00～ ⑦ 小清水町から裾野を広げる、木育チーム「もりのめ」の活動
～森への興味・関心の芽、森林管理を考える視（め）を育てる～

網走南部森林管理署 竹本 碧、中川 龍生

〔 林業において深刻化し続ける担い手不足を踏まえ、人々の森林・林業への興味・関心の“芽”を育み、その“裾野”を広げることを目的に取り組んでいる木育活動の特色とその事例について報告する。 〕

休憩 10:15～10:25

10:25～ ⑧ アウトドアを専攻する学生を対象とした森林環境教育プログラムの実践と効果

北海道教育大学岩見沢校野外教育学研究室 山田 亮

網走西部森林管理署 佐野 由輝 北海道森林管理局 平田 美紗子

〔 自然観察の知識や技能を体験的に学びながら、さまざまな物事の本質を捉える力を養うことを目的とした森林環境教育プログラムの内容、参加者への教育効果を紹介し、林野庁と非農学系大学との連携の成果を報告する。 〕

10:40～ ⑨ 広報ワーキングチームによるSNSを用いた発信力の強化について
～森林が動く、情報が届く～

北海道森林管理局広報ワーキングチーム（網走西部森林管理署西紋別支署） 桑原 紫苑

〔 森林管理局・署の認知度向上を図るため、令和6年10月、局公式SNSを開設した。幅広い世代に向け親しみやすい広報を目指し、投稿内容を検討した結果、1年間で150件投稿し、約140万回の閲覧数となった。 〕

10:55～ ⑩ アカエゾマツを活用した交通安全割符の開発と地域資源利用の実践

明治大学商学部 月岡 忠、別府 豪、永瀬 颯人、猪俣 智哉
都留文科大学教養学部 本多 真理

〔アカエゾマツ間伐材の割れやすいという欠点を、「厄を割る・断ち切る」という文化的価値へと再解釈し、未活用資源の社会的価値を引き出す。これは素材特性を社会課題の解決に結びつけた価値転換の実践事例である。〕

休憩 11:10～11:20

【高等学校部門】

11:20～ ① 月形演習林の広葉樹資源を守るために

北海道岩見沢農業高等学校 雨夜 宝、北川 智皓、石岡 柊吾

〔これまで利用されてこなかった月形演習林の広葉樹資源について、その利用法や価値を知るための調査を行った。特に、ミズナラのシイタケ櫓木資源としての利用を主体に考え、まず演習林の現状を調べた。〕

11:35～ ② 上川林業アップデート事業
～上川町の森と人をつなぐオリジナル手鏡の製作2025～

北海道旭川農業高等学校 竹内 遥紀、辻 美咲、赤間 紅愛、青柳 漣、中山 琉仁、今岡 太陽

〔本校が実践している上川林業アップデート事業を通して、上川町産のシラカンバを使用したオリジナル手鏡を製作しました。開催したワークショップでは多くの方々に手鏡づくりを体験していただくことができました。〕

11:50～ ③ 学校林のカラマツ人工林の林齢構成平準化に向けた取り組みについて

北海道帯広農業高等学校 川上 雄誠、皆川 弥希、小林 俊太、加藤 愛唯、加藤 愛菜

〔地域の事業体の方々のスマート林業技術を学びながら、学校林の7haのカラマツ人工林の林齢構成の平準化を進めてきた取り組みについて報告します。〕

昼食休憩 12:05～13:00

ポスター発表(高等学校部門)コアタイム 13:00～13:40

特別講演 13:45～14:45

特別講演

令和8年2月18日(水) 13:45~14:45

北日本におけるナラ枯れの拡大

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所北海道支所
森林生物研究グループ 主任研究員 小林 卓也

【略歴略歴・主な研究テーマ】

京都大学 理学部 (2013年)
京都大学 大学院理学研究科修士課程 (2015年)
京都大学 大学院理学研究科博士課程 (2019年)
森林総合研究所 森林植生研究領域 森林総研特別研究員 (2019年~)
森林総合研究所 森林昆虫研究領域 日本学術振興会特別研究員 (2021年~)
森林総合研究所 北海道支所 森林生物研究グループ 研究員 (2022年~)
森林総合研究所 北海道支所 森林生物研究グループ 主任研究員 (2024年~)



【講演概要】

本州以南で深刻な被害をもたらしてきたナラ枯れは、近年ついに北海道へ拡大し、2025年現在、道南地域で被害が急速に進行している。北海道で現在起きているナラ枯れは、基本的には本州以南でみられてきた現象の延長線上にあり、その理解と対応には本州以南での知見を適用することができる。一方で、北海道は現在のナラ枯れ発生地域の北限にあたり、かつてはナラ枯れの発生する地域ではなかったと考えられること、寒冷な気候、森林や植栽木の樹種構成、広葉樹資源の利用状況など、さまざまな条件が本州以南とは異なる。そのため、ナラ枯れが北海道でどう広がり、どのようなリスクがあるのかは、独自に考えていくべき部分も存在する。講演では、北海道におけるナラ枯れ被害拡大の最新状況を概観するとともに、原因となるカシノナガキクイムシの分布拡大に関する研究成果を紹介し、今後想定される影響について考察する。

【主な論文】

北海道におけるナラ枯れ被害木の伐倒くん蒸処理効果、2025、北方森林研究、73:32-40

北海道でのナラ枯れ初被害における被害木の特徴、2025、日本森林学会誌、107:8-15

Demographic history of *Platypus quercivorus* (Coleoptera: Curculionidae), a beetle causing mass mortality of oak trees, in eastern Japan, 2024、Insect Systematics and Diversity、8

令和7年度 北の国・森林づくり技術交流発表会（ポスター発表）

場所：ロビー（1階）

コアタイム

一般部門（P01～20）：令和8年2月17日（火）13:20～14:20

高等学校部門（P21～28）：令和8年2月18日（水）13:00～13:40

P01 樹群択伐天然更新施業について

空知森林管理署 照本 青音、牧野 有良

過去に施業を行った天然林において、笹の繁茂やエゾシカの被害等により後継樹の更新が阻害され老齢木のみが残存する等、公益的機能が劣化している箇所に樹群択伐天然林施業を試行的に実施したので報告する。

P02 カラマツ天然更新地における効率的な密度調整の効果検証について（第1報）

胆振東部森林管理署 堀内 桜、及川 恭輔

風倒被害跡地に高密度で天然更新したカラマツを対象に、効率的な方法で密度調整を行い、風害抵抗性を高めることを目的として試験地を設定した。第一報では、施業方法と林況調査結果について報告する。

P03 コタンコロカムイを呼び戻せ！ - 森と海をつなぐ治山施設改良 -

日高北部森林管理署 佐々木 聖、田口 和香菜

シマフクロウは、アイヌ語でコタンコロカムイ（集落を司る神）とされる国内希少野生動植物種。当署管内での同種が象徴する北海道古来の森林を再生する地域連携の取組のうち、森と海をつなぐ治山施設の改良等を紹介。

P04 盛土地拵え（小規模平坦地）における経過観察について

日高南部森林管理署 中村 陽一、吉原 皓平

現在人工林の主伐・再造林において低コスト化が課題となっている。当署では造林コスト等の検討を目的とし、盛土地拵え（小規模平坦地）を実施し多面的な試験を行っているため、その経過観察結果について考察する。

P05 留萌北部森林管理署におけるLiDAR等を用いた災害調査の省力化への取組について

留萌北部森林管理署 柳谷 藤男、野崎 潤也、村上 純平

近年、豪雨によって林道が被害を受けるケースが増えており、復旧に向けた災害調査を限られた時間や人手の中で実施していることから、LiDAR等の新ツールを活用した従来の災害調査における省力化を考察する。

P06 国有林ハンターから見る最近のヒグマの習性～狩猟経験26年で見てきた事実から～

上川北部森林管理署 小川 翼

令和7年の異常なヒグマによる人里への出没や人身被害は、はたして本当に森林内のどんぐり等の木の果の凶作が原因であるのか、ハンターとしての長年の経験を踏まえ、過去と現状の違いから考察する。

P07 レブンアツモリソウの保護増殖に向けた取り組み

宗谷森林管理署 秋葉 貴

礼文島にのみ生育し、レッドデータブックで準絶滅危惧に指定されている「レブンアツモリソウ」の保護増殖に向けて、これまで実施しているモニタリングや各種調査などの取り組みについて発表する。

P08 各種調査等の取組

上川中部森林管理署 中嶋 佑輔、大和田 真帆、大谷 数久

当署における「造林・保育の軽労化・省力化、広葉樹資源の育成及び多様な森林づくり」に向けた各種調査（低密度植栽、多様な下刈方法等）、「表土戻し地拵」の取組等について紹介する。

P09 立木販売の落札率改善に向けた要因の分析と考察

上川南部森林管理署 佐藤 拓人、中島 正太、細谷瑠希乃

本研究では、現在落札率が低迷している立木販売について、過去の立木販売のデータを分析し、課題等について考察する。

P10 森林環境教育におけるリーフアート(葉っぱ切り絵)の可能性について

網走西部森林管理署 酒井 裕史、中島 憲司

リーフアートを取り入れた森林教室により、児童の森林に対する意識がどのように変化するかを検証するとともに、誰でも気軽に行うことができる森林体験教材として広く普及させることを目指す。

P11 鹿の子沢風景林を利用した森林環境教育

網走中部森林管理署 長岡 愛加

認定こども園どんぐりの森林散策に講師として参加、鹿の子沢風景林を舞台に、園児向けにプログラムを考え、地元の自然豊かな森林の魅力を紹介することで、森林の持つ様々な働きを学習してもらう。

P12 誘導伐跡地に発生するカラマツ天然更新稚樹の活用と農業用トラクタ(マルチャー)を利用した密度管理

根釧西部森林管理署 永井 幸哉、吉田 太陽

誘導伐跡地に高密度で発生するカラマツ天然更新稚樹を用いて行った山取り苗の植付や更新初期に行う効率的な密度管理方法として、農業用トラクタをベースに開発したマルチャーの実用性について考察した。

P13 急傾斜地における人力地拵えの省力化技術の検証

十勝東部森林管理署 西口 豊樹、中山 佳之

林業の担い手不足が深刻化する中、急傾斜地での再造林における人力地拵の省力化・低コスト化を目指し、残材処理簡略化の効果と課題を検証する。

P14 再造林及び保育経費の抑制と造林作業の省力・軽労化に向けた取組

十勝西部森林管理署 花見有美子、小川 友菜、阿部 竜太、花田 零音

令和4年度に大型機械地拵を実施し、翌年度に3パターンの低密度でクリーンラーチコンテナ苗を植栽した箇所を試験地に設定した。以降、3カ年、それぞれの苗木の成長量調査と被害調査を実施したので結果を報告する。

P15 公共建築物への地元産国有林材利用に向けた取組

十勝西部森林管理署東大雪支署 白崎 雄飛、河野 来夢

当支署管内の町役場の庁舎建替えに伴い、庁舎の一部に地元産国有林材を利用したい旨要望があったことから、協定から庁舎完成に至るまでの一連の流れをまとめました。

P16 ダケカンバ二次林の施業について

後志森林管理署 上田 皓輝、堀田 英宏、阿部 義則

過去に火入れ地拵えや人工下種を行いカンバ類の二次林となった施業地において、カンバ類の肥大成長を促すため、間伐を実行した。この発表では、これまでの検討内容と実行時の問題点について報告する。

P17 森林・林業への関心や理解につなげるための取組 ～ 高校生に対する森林環境教育を通じて ～

渡島森林管理署 林 紗玖波

森林環境教育において、森林・林業への理解や関心を高めるためには、単に知識や情報を「伝える」のではなく、聞き手側に「伝わる」仕掛けや新たな発見が重要。「遊々の森」における植樹活動を通じた取組を紹介する。

P18 雷別地区自然再生事業の取組状況と今後の施業・管理について

釧路湿原森林ふれあい推進センター 美濃部 ゆず、阿地 克美

これまでの取組を報告するとともに、ツリーシェルターの効果及び課題並びに今後の管理について考察する。

P19 アクションカメラを用いた立木状態での三次元モデル生成の試み

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 岸本 光樹

〔優良木について立木状態での三次元モデルを生成することで、形質情報の判断、共有の補足材料となると考えられる。アクションカメラを用いることで簡易に三次元モデルを生成する技術について報告する。〕

P20 従業員確保の難しい現状でのコンテナ苗の増産

紋別地区種苗協議会 遠藤 貞

〔造林植付増で苗木の需要が増え供給が追いつかない現状である。苗畑従業員の高齢化などで確保が難しい中でのコンテナ苗増産を考えてみました。①幼苗移植期間の延長②移植期間延長に合わせた幼苗育苗③移植期間に合わせた育苗管理〕

P21 トドマツ林伐採後の森づくりを考える～かき起こしによる天然更新の可能性について～

北海道岩見沢農業高等学校 経営班

〔本校演習林では、トドマツ人工林伐採後の森づくりを行うかが課題となっている。今回はトドマツ伐採跡地においてかき起こし試験区を設定し、ササ刈り区、ササ区との稚樹の発生状況の比較を行った。〕

P22 木育を通じた地域連携による教育活動の展開について

北海道岩見沢農業高等学校 木育班

〔岩見沢農業高校・森林科学科木育班では、市内の保育園との連携した木育活動を中心に、各種機関や団体と協力した市内外のイベントに木育の出展を行い、森林・林業への理解を広げる教育活動を展開しています。〕

P23 木材の有効活用 ～商品化に向けてⅡ～

北海道岩見沢農業高等学校 活用班

〔本校演習林では、倒木や間伐実習で毎年多くの丸太が排出され、その丸太の有効活用のため昨年に引き続き改善し、木工のを商品化に向けて活動しています。〕

P24 上川林業アップテート事業 ～上川町の森と人をつなぐオリジナル手鏡の製作2025～

北海道旭川農業高等学校 竹内 遥紀、辻 美咲、赤間 紅愛、青柳 漣、中山 琉仁、今岡 太陽

〔本校が実践している上川林業アップテート事業を通して、上川町産のシラカンバを使用したオリジナル手鏡を製作しました。開催したワークショップでは多くの方々に手鏡づくりを体験していただくことができました。〕

P25 気づきを増やし、木使いを目指す 作って広めろ！木の魅力発信プロジェクト～2025～

北海道旭川農業高等学校 青木 陽ほか

〔私達は実習や旭川の木材産業から発生する未利用部材を材料に、身近に利用できる木製製品の開発と木の魅力を伝えることを目的に木工体験活動を行い、「普段から気軽にできる木使い」の普及を目指して活動しています。〕

P26 森の魅力を伝えたい ～トドマツの薫りに関する研究～

北海道旭川農業高等学校 澤山 真司

〔伐期を迎えたトドマツ資源を活用し、精油を採取する装置を作りました。また、トドマツ材のキーホルダーをデザインし、それに自作装置から採れるトドマツのアロマウォーターを染み込ませた商品を試作しました。〕

P27 上川林業アップテート事業 ～木の魅力を伝えるでんでん太鼓の制作～

北海道旭川農業高等学校 長原 壮汰ほか

〔上川町産シラカンバ材を使用した、オリジナルでんでん太鼓を考案しました。組立てるワークショップを通して、親子に木にふれあってもらい、木の魅力を伝えることができました。〕

P28 学校林のカラマツ人工林の林齢構成平準化に向けた取り組みについて

北海道帯広農業高等学校 川上 雄誠、皆川 弥希、小林 俊太、加藤 愛唯、加藤 愛菜

〔地域の事業体の方々のスマート林業技術を学びながら、学校林の7haのカラマツ人工林の林齢構成の平準化を進めてきた取り組みについて報告します。〕

施設利用におけるお願い

- ① 体調のすぐれない方はご入場をお控えください。
- ② 携帯電話等は、電源を切るかマナーモードに設定してください。
- ③ 大学敷地内は、施設も含めてすべて禁煙となっております。
- ④ 施設運営において施設内での飲食については、飲み物は可能ですが、食事はできません。
- ⑤ ゴミは各自でお持ち帰りください。

アンケートのお願い

- ・ 記入したアンケートは忘れずにアンケート回収箱へ投函ください。
- ・ Webアンケートについては、下記の北海道森林管理局ホームページをご覧ください。

URL: <https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

- ・ なお、メールにてアンケート提出については、下記のメールアドレスまで送付ください。

h_r7_happyo@maff.go.jp (●を@に置き換えてください)



〔北の国・森林づくり技術交流発表会運営事務局〕

北海道森林管理局 森林整備部 技術普及課

北海道札幌市中央区宮の森3条7丁目70番

011-622-5245

